

事業名称	「未来につなぐ奥松島のたから」再生活用事業		
実行委員会	「未来につなぐ奥松島のたから」再生活用実行委員会		
中核館	奥松島縄文村歴史資料館		
	住所	〒981-0412 宮城県東松島市宮戸字里 81-18	
	TEL	0225-88-3928	FAX 0225-88-3928
	ホームページ	http://www.satohama-jomon.jp/	
構成団体	東松島市教育委員会、野蒜築港資料室（野蒜築港ファンクラブ）、宮戸市民センター、野蒜市民センター、宮野森小学校、宮城県松島自然の家		
事業開始時点の課題分析	<p>現状、奥松島縄文村歴史資料館においては、東日本大震災によって史跡里浜貝塚等の館所蔵資料が被災し、被災ミュージアム再興事業や宮城県被災文化財等保全連絡会議等の支援を受けながら、現在も修理・修復を行っている。また、館が所在する奥松島地域は、特別名勝松島の一角を占め、里浜貝塚以外にも多くの縄文貝塚や製塩遺跡群、野蒜築港跡・東名運河からなる近代土木遺産群等の文化遺産が点在し、重要無形民俗文化財「えんずのわり」が伝承されているなど、後世まで継承すべき文化財(たから)が数多く残されている地域である。東日本大震災では地域のほぼ全体が被災し、文化遺産も甚大な被害を受けた。平成 23 年度から 26 年度に文化遺産を活かした地域活性化事業の採択を受け、被災した文化財の調査および再生・活用手法等の検討を行った。これらの事業の成果を踏まえ、地域のたからを再生させるとともに、文化財を後世まで継承していくことの重要性を再認識し、復興後のまちづくりや観光等の地域再生の資源として活用の具現化が必要である。29 年度から「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」の採択を受けて、事業を進めているところである。</p>		
事業目的	<p>本事業は、奥松島縄文村歴史資料館を地域の核として、東日本大震災によって被災した奥松島地域の文化財を再生し、地域のたからとして後世に伝えていくとともに、地域と連携しながら、地域自らが地域のたからを再認識し、震災からの復興及び地域の再生に資する活用を行うことを目的とする。また、縄文時代から継承されてきた本地域のたからを、国内のみならず訪日外国人も対象に、観光資源としての活用を図るための整備を行うものである。</p>		
事業概要	<p>本事業では、東日本大震災によって被災し修理・修復を行った文化財の活用を行うとともに、縄文時代から続く奥松島地域のたからを震災からの復興再生及び訪日外国人への対応を含め観光資源として活用を図るため、以下の事業を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 奥松島地域における文化財継承・活用事業 <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災で被災し修理・修復を行った奥松島縄文村歴史資料館等の資料の公開活用を行う。 奥松島地域における文化財を抽出し掘下げ、理解を深めるとともに、地域のたからとして発信する。 奥松島縄文村歴史資料館を中心とした多言語化環境整備事業 <ul style="list-style-type: none"> 訪日外国人の来訪と奥松島の歴史文化に対する理解を深めるため、パンフレット等の整備を行う。 地域のたからの発信拠点として、歴史資料館・史跡公園等における案内説明版や音声ガイド等の整備を行う。 		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館 <input type="checkbox"/>ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 <input type="checkbox"/>イ ユニークベニユアの促進 <input checked="" type="checkbox"/>ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 <input checked="" type="checkbox"/>エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 (2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動 <input type="checkbox"/>ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 <input type="checkbox"/>イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 <input type="checkbox"/>ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 <input type="checkbox"/>エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 (3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館 <input checked="" type="checkbox"/>ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 <input type="checkbox"/>イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発</p>
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業の実施によって、被災した文化財の再生活用を図るとともに、これまで周知及びその価値や重要性について理解されていなかった地域の歴史や継承すべき地域資源をテーマに講演会、シンポジウム等開催し、掘り下げたことで、地域の文化財を「たから」として意識し理解を深め、後世まで伝えていく機運を高めることができた。また、奥松島縄文村歴史資料館を地域のたからの情報発信の拠点として、史跡の解説書や資料館及び史跡公園ガイドパンフレット、文化財ガイドマップの整備、多言語化（日・英・中・韓国語版作成）を進めたことで、震災で激減した観光客の増加や外国人観光客の誘致・対応に貢献することができた。</p>

【事業実績】

- ・修復した里浜貝塚出土資料(縄文土器 22 点)の公開
(2018.11.17～2019.1.20 特別展「里浜貝塚が明らかにした縄文時代」)
- ・旧宮戸小学校民俗資料室資料の移管及び整理(民具等 227 件 542 点)
- ・「野蒜築港座談会&見学会」開催(2019.3.3 参加者:座談会 71 名、見学会 42 名)
- ・「若宮丸物語漂流物語講演会」開催(2019.1.26 参加者:100 名)
- ・奥松島文化財ガイドマップ改訂版の作成、配布(8,000 部)
- ・奥松島文化財ガイドマップ改訂版(英語・簡体中国語・韓国語版)の作成、配布(英語 5,000 部、他各 3,000 部)
- ・奥松島縄文村歴史資料館、史跡公園パンフレット(簡体中国語・韓国語版)の作成、配布(各 4,000 部)
- ・史跡里浜貝塚解説書(簡体中国語・韓国語版)の作成、配布(各 1,000 部)